

度会町における

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会

令和7年9月

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されている全国調査です。また、そのような取組みを通じて、よりよい教育のための継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校及び家庭や地域での教育活動における数値化可能な部分の一側面です。このことを今回の調査において十分考慮し、今後の当町の教育について一層の充実を図っていくことが大切です。

1. 調査の概要

(1) 調査日

令和7年4月17日（木）

(2) 対象者

度会小学校6学年（48名）・度会中学校3学年（64名）で実施

(3) 対象科目等

小学校：国語・算数・理科

中学校：国語・数学・理科

(4) 調査内容

①教科に関する調査

- ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

上記の2点を一体的に問い、検証を行うことにより、教科指導や学習状況の改善につなげる。

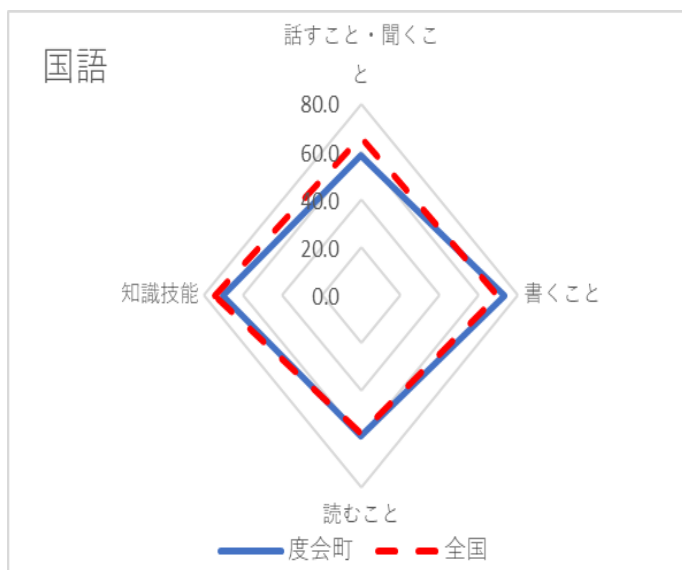
②生活習慣や学習環境等に関する調査

- ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する状況等を確認・把握する。
（児童・生徒質問紙）
- イ) 学校における指導方法に関する取組や学校における人物・物的な教育条件の整備状況等の確認・把握する。（学校質問紙）

2. 教科別概要

(1) 小学校国語

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

(町 70.0% 県 62.6% 全国 61.3%)

○目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることができる力 (町 65.0% 県 55.0% 全国 56.3%)

△目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する力

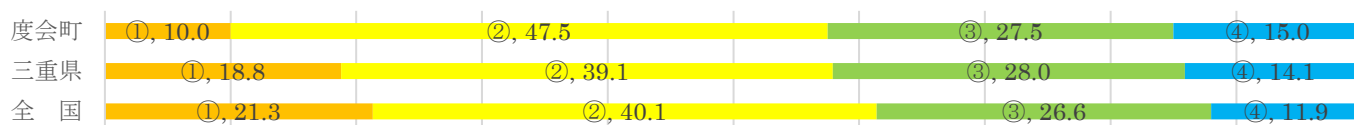
(町 42.5% 県 52.5% 全国 53.3%)

△学年別常用漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる力

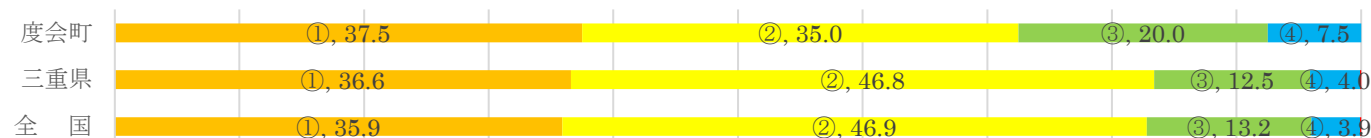
(町 65.0% 県 78.3% 国 76.8%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

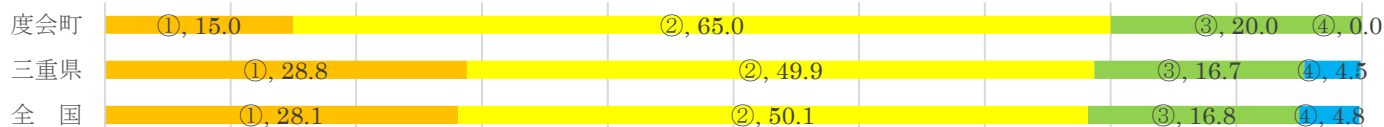
国語の勉強は得意ですか



国語の授業の内容はよくわかりますか



国語の授業で先生はあなたのいいところや前よりできるようになったところを伝えてくれますか

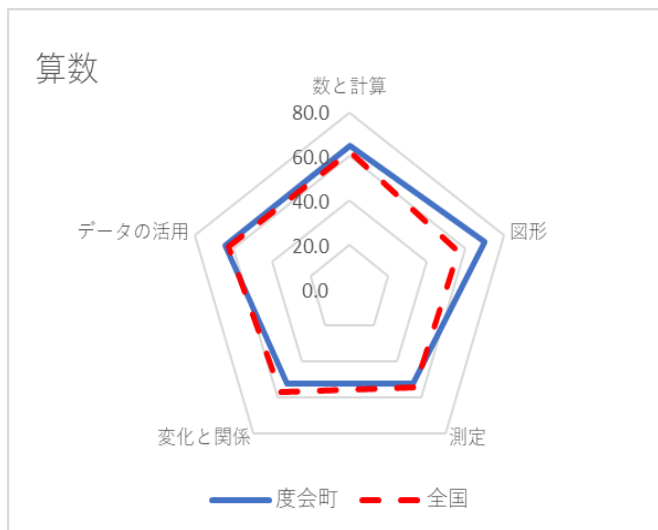


■全体的傾向と課題

- ・「国語の勉強は得意ですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童をあわせた割合が、県・全国と比べて低いことから、国語について苦手意識があることが読み取れます。
- ・自分の考えを伝えるために、段落や文章構成について考えたり、図表などを用いて書き表し方を工夫して書く力については、身についています。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項について、力をつけていく必要があります。
- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめたり、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する力を伸ばしていく必要があります。

(2) 小学校算数

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○平行四辺形の性質を元に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する力

(町 82.5% 県 60.4% 全国 58.3%)

○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する力

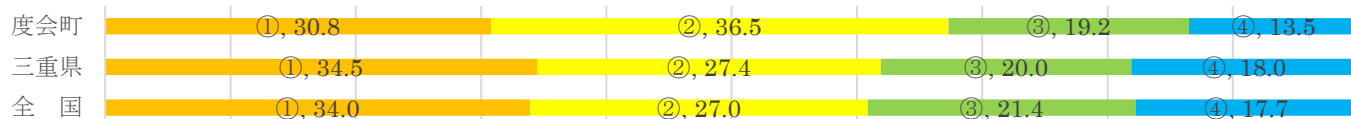
(町 52.5% 県 34.8% 全国 37.0%)

△「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す力

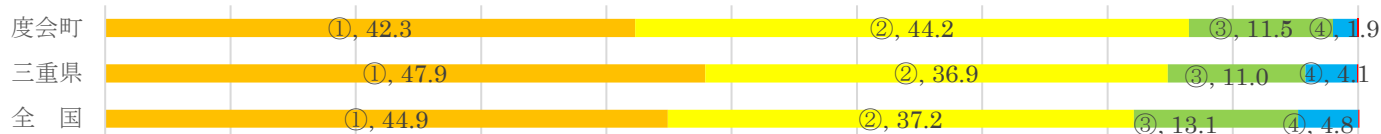
(町 32.5% 県 37.5% 全国 40.9%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

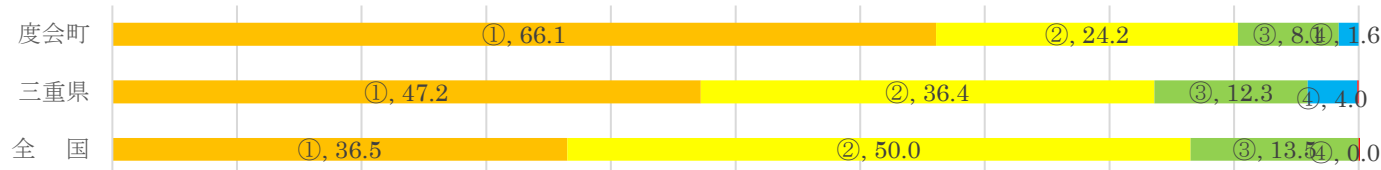
算数の勉強は得意ですか



算数の授業の内容はよく分かりますか



算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

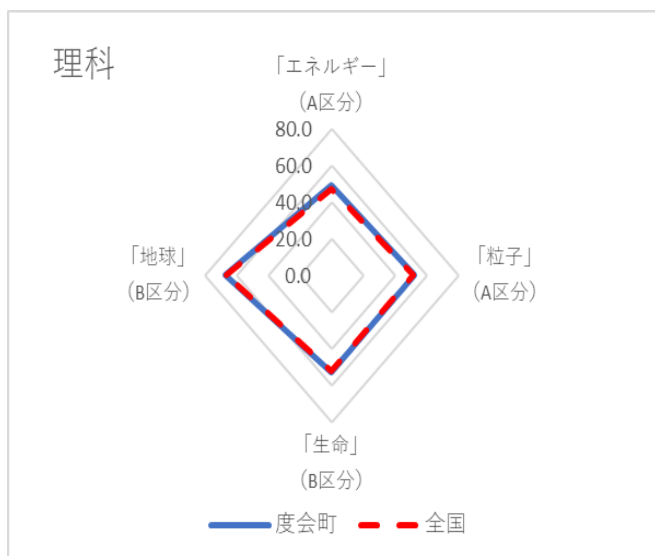


■全体的傾向と課題

- ・「算数の勉強は得意ですか」「算数の授業内容はよくわかりますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童をあわせた割合が、県・全国と比べて高くなっています。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いについては、①当てはまる と回答した児童が大幅に県・全国平均を上回ることから、粘り強く学習に取り組む姿勢がうかがえます。
- ・図形に関する問題は、すべての問題において県・全国平均を上回っていました。
- ・変化と関係に関する問題は、すべての問題において県・全国平均を下回っていたため、今後力をつけていく必要があります。

(3) 小学校理科

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力
(町 70.0% 県 52.3% 全国 50.6%)

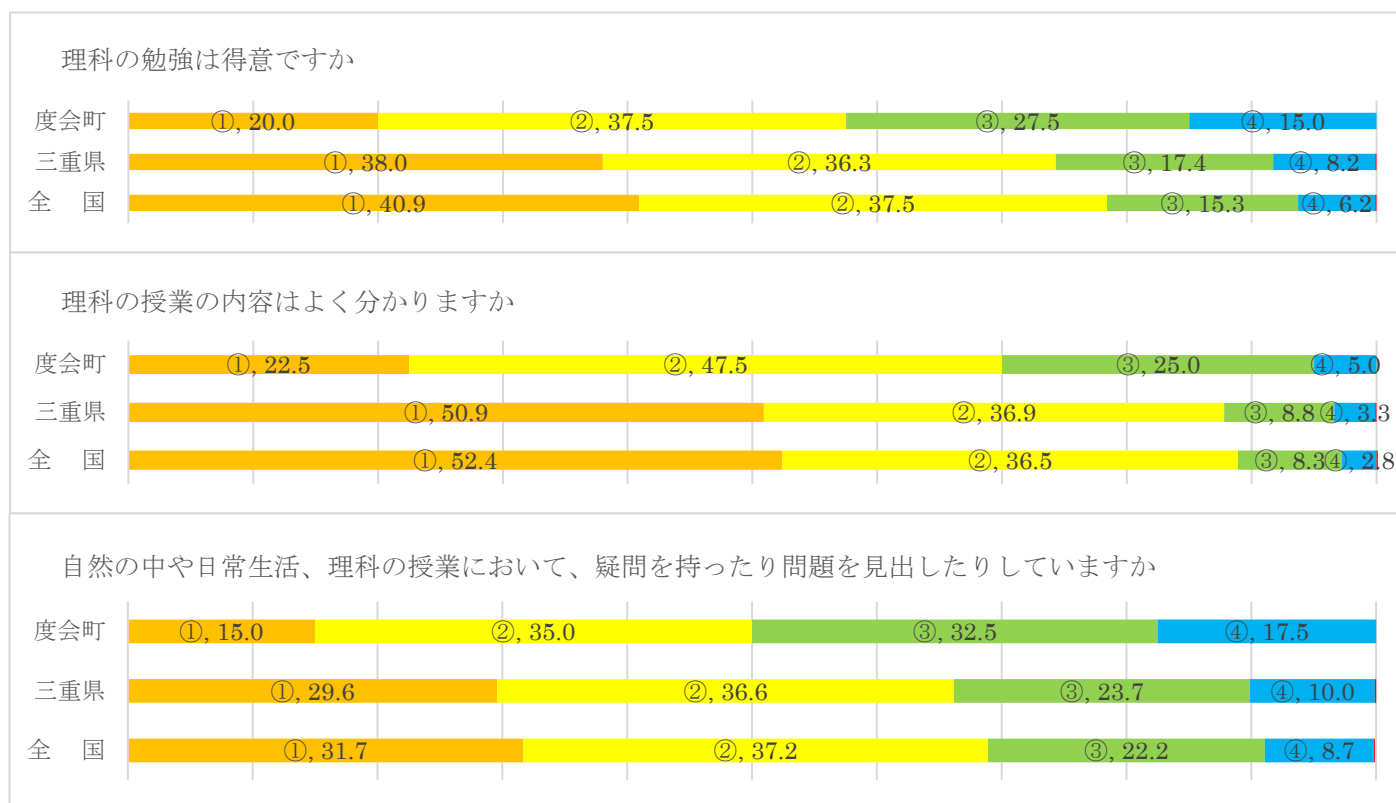
○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についている

(町 72.5% 県 55.6% 全国 55.1%)

△水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を元に、概念的に理解している

(町 47.5% 県 61.4% 全国 64.2%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

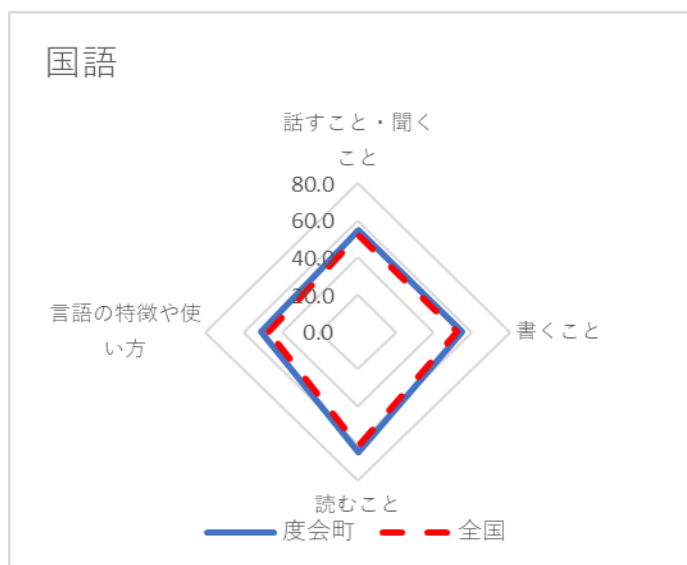


■全体的傾向と課題

- ・「理科の勉強は得意ですか」「理科の授業内容はよく分かりますか」「自然の中や日常生活、理科の授業において、疑問を持ったり問題を見出したりしていますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した児童をあわせた割合が、県・全国と比べて低くなっています。
- ・4分野のすべてにおいて、県・全国平均をやや上回っており、顕著な苦手分野はありませんでした。
- ・全国的な課題と同じく、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものについての知識については今後力をつけていく必要があります。

(4) 中学校国語

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える力

(町 95.2% 県 89.0% 全国 89.9%)

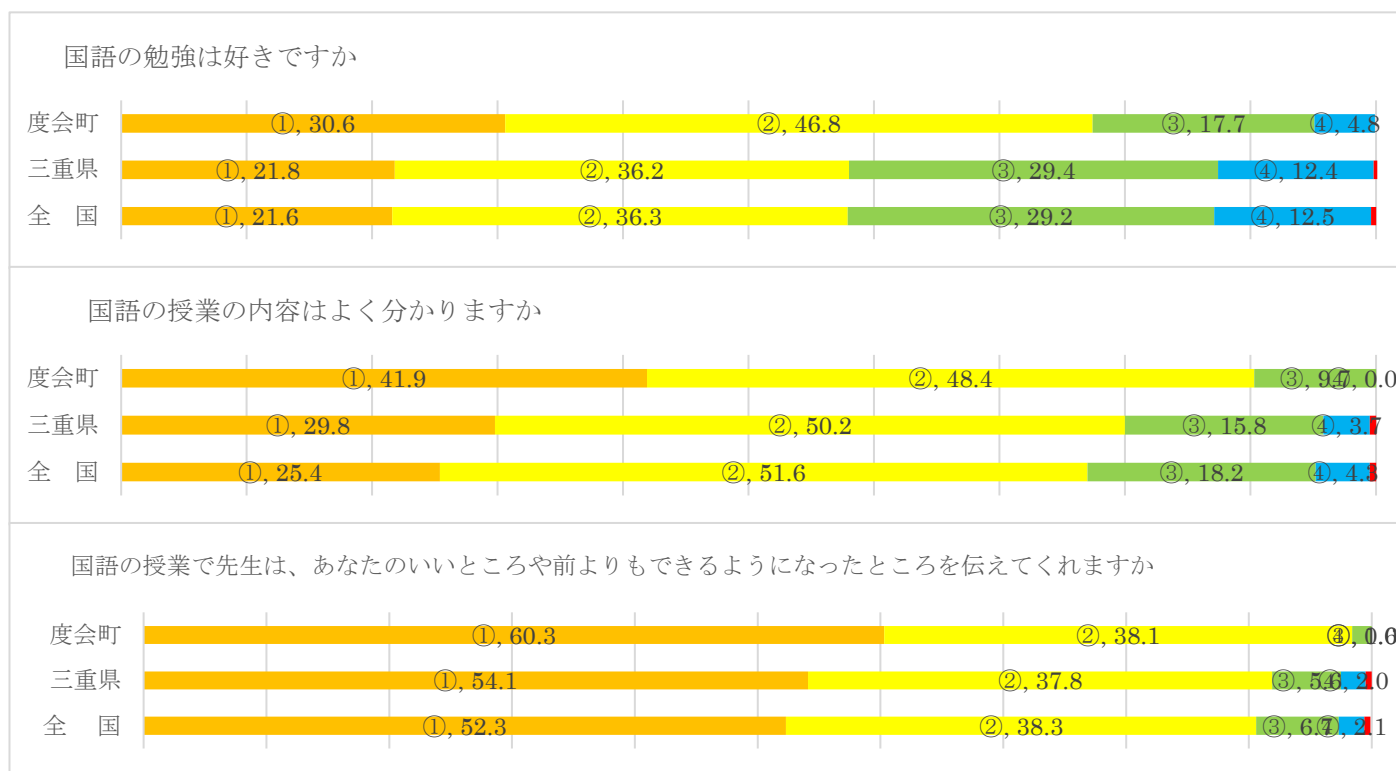
○事象や行為を表す語彙について理解している

(町 66.7% 県 59.7% 全国 61.0%)

△書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える力

(町 58.7% 県 60.7% 全国 63.3%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

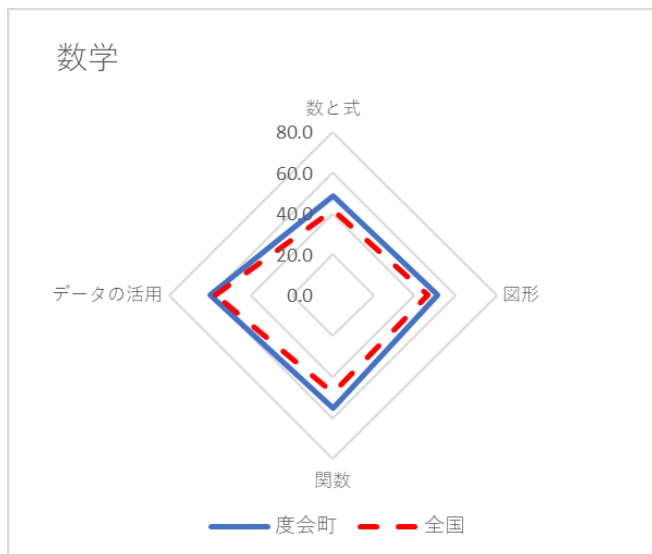


■全体的傾向と課題

- ・「国語の勉強が好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で先生は、あなたのいいところや前よりもできるようになったところを伝えてくれますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて大幅に高くなっています。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる力については身についてきています。
- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる力については今後身につけていく必要があります。

(5) 中学校数学

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (強み○弱み△)

○一次関数について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める力

(町 50.8% 県 34.3% 全国 34.7%)

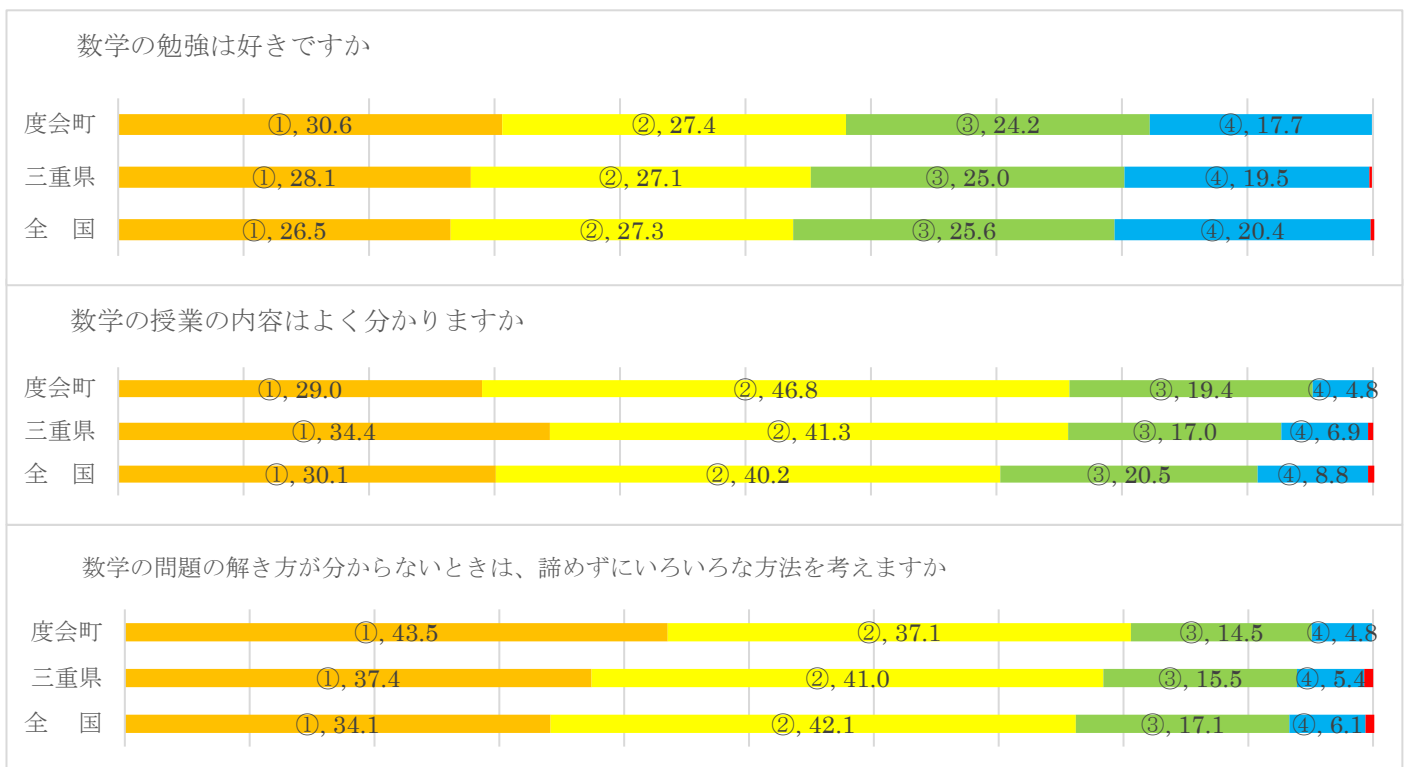
○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる力

(町 58.7% 県 45.0% 全国 45.2%)

△事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる

(町 57.1% 県 59.3% 全国 62.8%)

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



■全体的傾向と課題

- ・「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」「数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対し、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて高くなっています。
- ・「図形」「関数」「データの活用」に関する問題では、すべての問題において県・全国と比べて正答率が上回っていました。

(6) 中学校理科

■調査問題の傾向

今年度から、中学校理科に関しては生徒が一人一台端末を用いて、文部科学省が開発した CBT システム (Computer Based Testing) 上で解答しました。問題は公開されている問題と、公開されていない問題に分かれています。幅広い内容・難易度の問題セットを用意しており、生徒ごとに違う問題セットで出題されました。

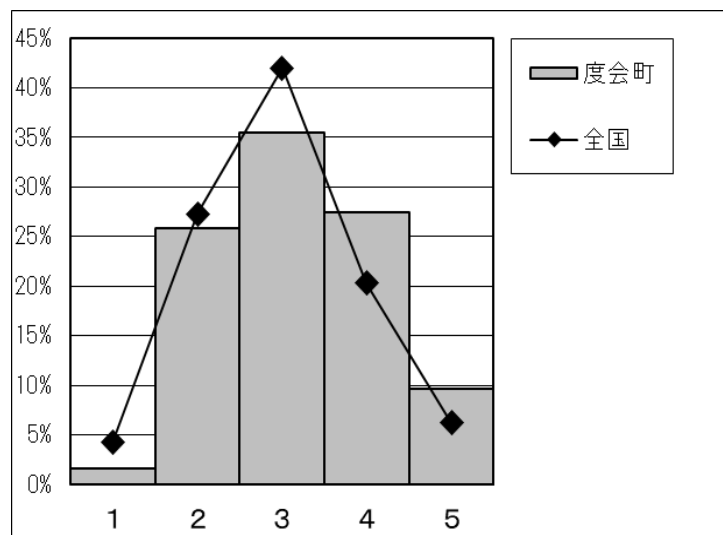
また、その結果を、これまでの結果分析とは異なる IRT (Item Response Theory : 項目反応理論) で行うこととなりました。結果については IRT を 2 つの視点から各校に公表されています。一つは、IRT スコアです。IRT スコアとは、「IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定」してスコアにするもので、「500」を基準にした得点で表します。例えば今年度の全国平均が「500」、とある自治体の IRT スコアが「495」なら、その自治体は全国平均よりも学力が低いと評価されたことになります。もう一つの視点は IRT バンドです。IRT バンドとは、IRT を 1～5 の 5 段階に区切ったもので、3 を基準バンドとし、5 が最も高いバンドです。

IRT スコア集計値

	平均 IRT スコア	標準偏差
度会町	528	120.8
全国 (公立)	503	124.0

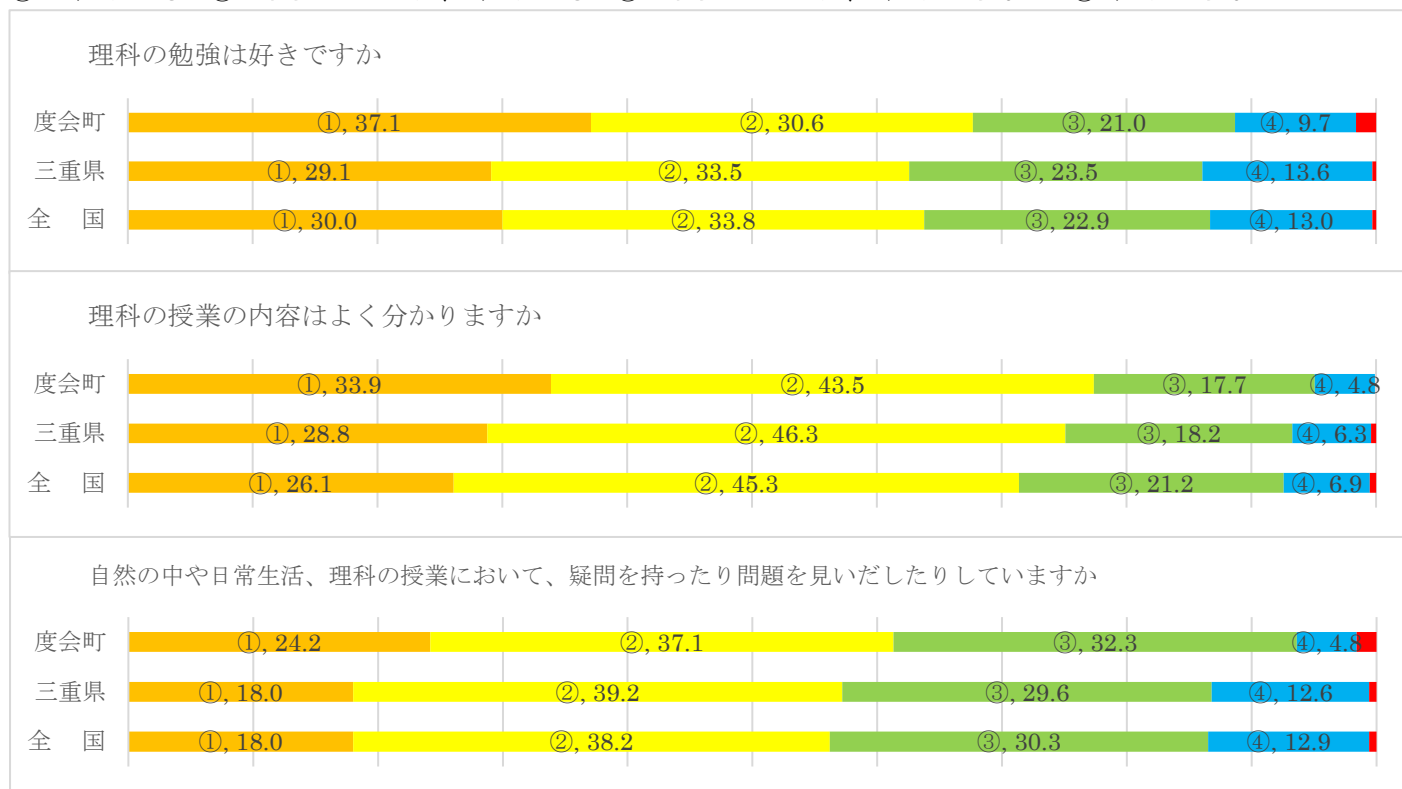
度会町の場合は、
平均 IRT スコアが 528 だったので
全国平均よりも上回っているといえます。

IRT バンド分布グラフ (横軸 : IRT バンド 縦軸 : 割合)



IRT バンド分布においても、
4・5の数値が全国の値より 10%程度
上回っていることが読み取れます。

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



■全体的傾向と課題

- 「理科の勉強は好きですか」「理科の授業内容はよくわかりますか」「自然の中や日常生活、理科の授業において、疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」という問いについて、①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる と回答した生徒をあわせた割合が、県・全国と比べて高くなっています。

(7) 各教科平均正答率の状況

<小学校>

(%)

平均正答率	国 語	算 数	理科
度 会 町	65.0	63.0	59.0
三 重 県	66.0	57.0	56.0
全 国	66.8	58.0	57.1

<中学校>

(%)

平均正答率	国 語	数 学	理科 (IRT)
度 会 町	56.0	53.0	528
三 重 県	53.0	47.0	498
全 国	54.3	48.3	503

3. 児童生徒質問紙調査の概要

児童生徒質問紙は、児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。

生活全般の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境に関わること等への問いがあります。各教科に関する主な質問紙調査結果については、2. 教科別概要でも掲載しています。

この項では、「豊かな人間性・学校生活・家庭生活（生活習慣・学習習慣）について」の4つの項目に係る主な調査結果と傾向について記載しました。

なお、特別に記載のない質問項目については、「している」「どちらかと言えばしている」又は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合の合計を記載しています。

【豊かな人間性】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
自分には良いところがあると思いますか	小	82.5	85.1	86.9	-4.4
	中	93.5	85.9	86.2	7.3
人が困っているときは、進んで助けていますか	小	92.5	94.0	93.7	-1.2
	中	93.5	91.1	90.9	2.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	97.5	97.6	97.2	0.3
	中	98.4	96.4	95.9	2.5
将来の夢や目標をもっていますか	小	67.5	82.4	83.1	-15.6
	中	75.8	68.8	67.5	8.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小	97.5	96.4	96.4	1.1
	中	100	96.4	96.6	3.4

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では、中学校のすべての生徒が当てはまるまたはどちらかといえば当てはまると回答しました。
- ・将来の夢や目標については、小学校において県・全国の平均と比べ持っているとは回答した児童が大幅に少ない結果となっています。

【学校生活】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
学校に行くのは楽しいと思いますか	小	85.0	85.0	86.5	-1.5
	中	88.7	87.4	86.1	2.6
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	60.0	77.3	78.1	-18.1
	中	93.5	80.4	79.2	14.3
友達関係に満足していますか	小	97.5	92.2	91.7	5.8
	中	92.0	91.6	91.4	0.6
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	小	75.0	69.5	70.6	4.4
	中	79.0	73.5	73.2	5.8

- ・小学校において「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合が県・全国と比較して低い傾向が見られます。今後、多様な意見に触れ、話し合う学習を深めていく必要があります。
- ・自分が困ったり不安になったりした時に相談できる大人が学校にいる、と考えている児童生徒の割合が、小中学校ともに県・全国と比べ高くなっています。

【家庭生活（生活習慣）】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
朝食を毎日食べていますか	小	95.0	92.9	93.7	1.3
	中	93.6	91.9	91.2	2.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小	90.0	80.9	81.9	8.1
	中	88.7	82.7	81.0	7.7
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小	92.5	91.0	91.0	1.5
	中	96.8	93.4	92.6	4.4

・小中学校ともに、おおむね規則正しい生活が送れているようです。

【家庭生活（学習習慣）】

(%)

質 問 項 目		度会町	三重県	全国	全国比
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小	80.0	81.6	81.7	-1.7
	中	87.1	79.6	77.5	9.6
平日、学校以外での1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む）（1時間以上と回答した割合）	小	27.5	50.3	54.0	-26.5
	中	58.0	60.5	61.6	-3.6
土日や休日の、1日あたりの学習時間（塾・家庭教師等含む）（1時間以上と回答した割合）	小	7.5	15.9	21.5	-14.0
	中	17.7	26.0	32.5	-14.8
平日、学校以外での一日あたりの読書時間（教科書や参考書、漫画は除く）（30分以上と回答した割合）	小	17.5	28.4	31.1	-13.6
	中	27.4	19.2	21.4	6.0

・家庭学習の時間は、小学校・中学校ともに県・全国に比べ短い傾向です。特に、休日の学習時間は大幅に少ないようです。

4. 全国学力学習状況調査を踏まえた今後の取り組みについて

小中学校では、継続的な取組として朝の学習時間を有効活用しています。落ち着いた気持ちで読書をしたり、定着しきれていない箇所の反復練習をしたりすることにより、授業への集中、基礎学力の向上など、学習効果が上がっています。また、各学年に応じた家庭学習の提示とともに、「家庭学習の手引き」を配布することでご家庭と連携し、継続した子どもの学びの実現に向けた取り組みを行ってきました。

中学校においても、昨年より朝の読書時間を学習時間に変更し、ICTを活用して自分の苦手とする教科、単元を中心に自主的に学習する活動を行っています。授業でも、生徒の自主性を重んじながら子ども同士の学び合いを重視した展開をしています。

また、昨年度から度会町では一小一中の強みを生かして義務教育9年間を系統立てて成長を促していく一貫教育の構築を始めています。今年度からはこれまで中学校で大切にしてきた「W-S TYLE（わたらいスタイル）」を小学校でも発達段階を考慮しつつ導入しました。子ども自らが規律を守ること互いを思い合い、居心地がよく安心して学ぶことができる環境づくりとともに、子ども自らが学びに向かい、継続して学び続けようとする姿をめざして、教職員の指導の統一化の徹底を図っています。

小中学校において、ICT機器を積極的に活用した授業を行っています。学齢に応じて家庭への持ち帰りも積極的に行い、家庭学習や自主学習等学びのツールとしても子どもたち自らが効果的に活用するスキルが向上しつつあります。

さらに、算数・数学の授業において、習熟度別の学習を行っています。既習事項の定着度や理解度に応じたクラス分けを行うことで、じっくり考えたり、いろいろな問題を解いたりして、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿が多く見られるようになってきました。

主体的・対話的で深い学び・途切れない学びの実現を通し、一人ひとりの学力向上、誰ひとり取り残さない教育の充実を目指しています。

今後も一貫教育を柱として、学校・家庭・地域が更なる連携を図り、子どもたちが「度会町で学ぶ」学習環境・学習内容の充実に取り組んでいく必要があります。ご家庭や地域の皆さまには、今後も教育活動へのご理解・ご協力とともに、ご家庭や地域における子どもたちの成長へのサポートを、これからもよろしくお願いいたします。